

令和5年度 社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会事業報告

新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し社会活動が活性化しつつある中、令和5年（6月）梅雨前線による大雨及び台風2号により、岡崎市内においても河川の氾濫による浸水などの多くの被害が発生しました。被害があった翌日には「災害ボランティア支援センター」を県内でもいち早く開設し、6日間に渡り、延べ551名のボランティアのお力を頂き、被災地復旧に向けた支援を行いました。

令和6年1月に発生した能登半島地震では、愛知県社協及び被災地社協と連携し、被災地支援として当会職員の派遣を行い、併せて復興支援ボランティアの派遣ルート等の調整などを進めました。

こうした自然災害は、近年増加傾向にあり、今後、「南海トラフ地震」の発生が常に注視されている中、6月の水害での課題を検討、整理したうえで「災害ボランティアコーディネーター養成講座」や「災害ボランティア支援センター設置・運営訓練」など、災害に強い組織を目指して体制整備の強化を図りました。

また、障がい者の社会参加と自立支援の一環として「オカザえもんのパラ芸術祭2023」を開催し、障がいのある方々の作品を岡崎市社会福祉センター内で展示し、障がい者福祉の理解促進及び社会福祉センターの認知度アップを図りました。

こうした災害や障がい福祉分野以外においても、生活困窮者支援における食料支援や就労に向けた面接用スーツのレンタルや、貧困スパイラルに陥らないための教育支援資金の広報活動などの他、様々な福祉分野における相談や訪問事業などに取り組みました。また、こうした事業を継続的に進めるためにも、事業の効率化に向けたDX化の推進や、当会の事業活動を支える人材育成、活動財源となる自主財源確保として寄附付き自動販売機設置の依頼などを積極的に進めました。

今後も、関係機関の皆様と連携・協力しながら地域とのつながりを深め、様々な福祉サービスを提供し、高齢者や、障がい者、子育て世帯等、生活に課題を抱えるあらゆる市民をサポートするため、全職員一丸となって地域福祉活動の推進に取り組んで参ります。

第1 重点取り組み事業の報告

【総務課】

事業総括【法人組織体制の強化、計画的な人材育成】

昨今の働き方改革の流れから、業務の効率化を図るため、令和5年度においては、これまで予算作成と予算管理を別々に処理していたものを一体的に運用できるよう、経理システムの更新を進め、令和6年度からの本格運用へ向けて取り組んできた。また、組織として新しい風を取り込むため、新規採用を実施し、新卒者2名を採用することができた。その他、当会の知名度向上を目指し、SNSやホームページへの情報発信の他、社会福祉センターにて「オカザえもんのパラ芸術祭 2023」を実施し、障がい者アートの普及と当会及び社会福祉センターについて啓発活動に取り組んできた。

事業計画	成果
<p>1 DX(デジタルトランスフォーメーション)化の推進 財務会計システムのクラウド化や電子決裁の検討により、事務のDX化を図る。 (1) 財務会計システムのクラウド化 (2) 電子決裁の検討</p> <p>2 職員の人材育成 新規職員の採用など計画的な人材確保や人事評価、働き方改革、個人情報保護等の研修を実施するなどにより、継続した職員の人材育成を図る。 (1) 職員研修の実施 (2) 新卒者採用試験の実施</p> <p>3 社会福祉協議会の取組みの周知 (1) 社協の顔・看板となるホームページを整備するほか、SNSや報道機関を積極的に活用し、社協の取組みの周知を図る。 (2) オカザえもんのパラ芸術祭や赤い羽根作品展コンクールの作品展示を実施し、障がい者芸術支援とともに広く市民へ社会福祉センターの啓発を行う。 オカザえもんのパラ芸術祭 2023 の実施</p> <p>4 寄附による事業支援体制の整備 寄附付き自動販売機の設置など寄附による社協の地域福祉活動への支援体制を整備する。 (1) 寄附付き自動販売機の設置 (1) 寄附に係る事務処理体制の整備</p>	<p>1 (1) 経理システムを、現行のものから予算編成を内包した新システムへ令和6年4月から移行・稼働 (2) 休暇管理簿・代休簿等の電子決裁を開始</p> <p>2 (1) 接遇マナー研修、クレーム対応研修、働き方改革研修、交通安全研修を実施 (2) 新卒者を2名採用</p> <p>3 (1) 新ホームページ及びSNSを活用した情報発信を行った。 (2) オカザえもんのパラ芸術祭 2023 の実施(令和5年12月9日～令和6年3月24日)</p> <p>4 (1) 寄附付き自動販売機 設置台数 38 台 (2) 報道発表、寄附受納式の流れを整理</p>

【総務課】

事業総括【地域福祉の推進】

令和5年6月の梅雨前線及び台風による大雨災害により、愛知県内においても最も早く災害ボランティア支援センターを開設し、市内の被災地域支援を岡崎市と協力し、551名のボランティアを派遣し復旧に向けた支援活動を行った。

また、子どもの居場所支援として、継続的に子ども食堂の運営及び、立ち上げ支援を行い、令和5年度においては新たに9箇所の子どもの食堂(市内計32箇所)が立ち上がった。一部の食堂では、利用対象を子どもたちに限らず地域の居場所としての「地域食堂」としての運営を行っている。当会としては、立ち上げ時の伴走支援の他、運営者側の研修や社会貢献を行う企業と食堂をつなぐ橋渡し役などに取り組んだ。

事業計画	成果
<p>1 学区福祉委員会支援</p> <p>(1) 委員長研修の実施 年1回</p> <p>(2) 学区福祉委員会活動支援 役員会等への出席</p>	<p>1</p> <p>(1) 地域福祉、学区福祉委員会の在り方、補助金の使い方等のテーマで開催した。</p> <p>(2) 各学区福祉委員会の活動状況について、情報共有を図り、地域福祉活動の推進に向けて地域で協議を重ねた。</p>
<p>2 子どもの居場所支援</p> <p>(1) 子ども食堂に対する支援 立ち上げ支援</p> <p>(2) 学習支援を受ける子どもたちへの食支援 モデル地区選定</p>	<p>2</p> <p>(1) 令和5年度内で9食堂が新規開設。その他令和6年度開設予定5食堂の支援を行った。</p> <p>(2) 岡崎ロータリークラブの支援で連尺学区、また竜美丘学区では学区福祉委員会が中心となり弁当配布を実施。その他、城南学区、矢作北学区にて、協力飲食店の開拓を行った。</p>
<p>3 福祉教育推進</p> <p>(1) 福祉実践教室の実施 10校</p> <p>(2) 福祉教育プログラムの実施 9校</p>	<p>3</p> <p>(1) 小中高等学校 17校 延べ実施日数 28日</p> <p>(2) 小中高等学校 13校 延べ実施日数 103日</p>
<p>4 災害時におけるボランティアの体制整備</p> <p>(1) ボランティア支援センターのICT化 県社協が構築したシステムに参加</p> <p>(2) 災害協定団体(市、ボランティア、NPO)との連携強化 連携会議の実施(1回)</p> <p>(3) ①災害ボランティアコーディネーター養成講座②フォローアップ講座③設置運営訓練の継続実施 各年1回実施</p>	<p>4</p> <p>(1) 災害ボランティア支援センター開設時のニーズ受付やボランティア受付等において、サイボウズを活用した体制整備を行った。</p> <p>(2) 能登半島地震発生により実施を見合わせた。</p> <p>(3) 各講座実施</p>

【生活支援課】

事業総括【権利擁護、障がい者の生活相談の充実】

普及啓発のためのパンフレット配架は、新たに7施設を増やし計192か所とした。

後見制度に関する新規相談件数は減少したが、市長申立や受任候補者不在の案件が増えてきており、今年度から受任調整会議を毎月開催とし迅速な対応に努めた。

日常生活自立支援事業は昨年度比では2件増加となった。増加する利用ニーズに応えるため専門員業務の一部を生活支援員に移管するための検討を行った。

障がい者相談支援事業は、相談員が手話・要約筆記者派遣業務を兼務したことから、積極的な新規計画の受諾が厳しい状況にあったが、前年度比では1件増加となった。また、担当地域内の障がい福祉サービス事業所に向け、障がい理解や虐待防止に関する勉強会を相談支援事業所相談員が講師となり実施、事業所同士の連携強化を図った。

事業計画	成果
<p>1 成年後見制度の強化 岡崎市成年後見利用促進計画に基づき、啓発、相談、受任調整、後見人支援等後見制度利用にかかるすべての部門の強化を行う。</p> <p>(1) 成年後見制度啓発 パンフレット配架施設数 190 箇所</p> <p>(2) 成年後見支援センター利用者数の増 新規相談件数 240 件</p>	<p>1</p> <p>(1) 配架施設を7か所増やし192ヶ所とした。</p> <p>(2) 新規の相談件数は182件。 特に包括支援センターからの相談が減少。親族と疎遠や身寄りがないなどの理由で、市長申立に関する相談が多い。 ※ 市長申立による法人後見受任件数は13件。令和4年度受任件数9件で、4件の法人後見受任件数が増加</p>
<p>2 日常生活自立支援事業 日常生活自立支援事業の利用者数の増 50件</p>	<p>2</p> <p>令和4年度の利用者45件。10件の契約終了者があり、新たに12件を契約。最終的に昨年比2件増の47件となった。</p>
<p>3 障がい相談支援事業 障がい相談事業における計画作成数（利用者数）の増 285件</p>	<p>3</p> <p>令和4年度の利用者256件。 25件の契約終了者があり、新たに26件を契約。最終的に昨年比1件増の257件となった。 ※連携強化のため障がい福祉サービス事業所向け権利擁護研修を開催（年3回）</p>

【介護課】

事業総括【訪問介護事業の推進】

高齢化によって介護保険サービスの需要が高まる中で、質の高さとともに即応性の高いサービスが求められてきたが、当会ヘルパーの高齢化が進行する中、時間と曜日によっては当会のヘルパーだけでは受け入れが出来ないケースがあった。

障がい福祉サービスでは、日常生活の支援だけでなく、社会参加のための外出など、長時間に渡る希望にも正規職員を充てるなど利用者の満足度向上に努めた。また、本人にまつわる家族間の多様な課題に対応できるよう、サービス提供責任者ごとのカンファレンスを行ったり、スキルアップのため外部講師を招いての実技研修も行った。委託事業である養育支援や産前産後ホームヘルプサービスから障がい福祉サービスに移行する事例もあり、多種職との連携を頻回に行った。

この他、少人数で事業展開を行うための業務効率化として、訪問記録や請求などの ICT 化に取り組んでいる他市社協への視察を行い、スケジュール管理から訪問記録、請求及びヘルパーの賃金まで、一貫したシステムの導入に取り組んだ。

登録ヘルパーの増員に向けては、社協だより、SNSでの発信や、イベントなどの機会にチラシを配布し 10 名のヘルパー登録者があった。

事業計画	成果
<p>1 介護保険事業、障がい福祉サービス等の利用件数の増加、断らない訪問介護の体制作り 利用者数 ア 介護保険 900 件 イ 障がい福祉 800 件</p>	<p>1 退職職員の補充が進まず、かつ高齢化した登録ヘルパーの業務負担軽減などの要因や、利用者の利用状況の変化が重なり介護保険は目標に及ばなかったが、障がい福祉は目標を大きく超え、全体的には 42 件のプラスとなった。 ア 758 件(△142) イ 984 件(+184)</p>
<p>2 ホームヘルパーの増員 啓発の機会を確保し社協ヘルパーをアピールしていく 登録ホームヘルパーの体制</p>	<p>2 広報啓発活動の結果、採用の問い合わせが 13 件あった。高齢などの理由により 7 名の退職者が出たが、新たに 10 人を採用することができて 55 名体制となった。</p>
<p>3 ホームヘルパーの資質向上 (1) ホームヘルパースキルアップ研修 年間 12 回 (2) 個別ケース検討会の実施 サービス提供責任者ごとに開催 年間 1 件/人以上</p>	<p>3 (1) 計画通り年間 12 回の研修を実施。ICT 化に取り組む刈谷市社協を視察しシステム導入の検討を進め、ヘルパー向け研修を 2 回実施、令和 6 年度からのシステム運用へ準備を行った。 (2) 一部を除き、サービス提供責任者ごとのカンファレンスを 1 回/年実施</p>

【地域支援課】

事業総括【地域づくり、生活困窮者支援の充実】

伴走型支援、生活支援コーディネーター等の業務の中で、課題となっている「見守り」「長期・高年齢のひきこもり」をテーマとした地域福祉講座を実施した。地域、企業による見守りの実践報告も行き、組織的な見守り活動、生活の中における見守り、見守られることについて、地域の支援者が学ぶ機会となった。ひきこもりの講座では、長期的な支援が必要であることの共通理解、生き方支援を学ぶ機会となった。

はぴりんバンク（生活困窮者への食糧、日曜日支援の仕組み）においては、より支援が必要な世帯へ届く方法を模索し、ひとり親世帯のうち生活困窮者支援をしている団体等を通じた個別支援に重点をおいて実施。また、食料にとどまらず、就労支援のためのスーツレンタルを実施した。

経済的な事情による進学のを逃すことなく、安心して進路を検討する一助のため、教育支援資金の広報を、市内全中学3年生の保護者へ実施。進路指導担当教諭やスクールソーシャルワーカー等関係機関との連携強化を図った。

事業計画	成果
<p>1 地域福祉講座の開催 現在の社会課題を学ぶ機会及び今後の活動に繋がる講座を開催する。 地域福祉講座 年2回</p> <p>2 地域支援者の連携強化 市内で活動する地域支援者や関係機関との連携、協働により、潜在的な相談者の発見や社会課題の解決に向けた取り組みを図る。 地域支援者交流会 年2回(1回は他機関と共催)</p> <p>3 居場所、就労準備支援の実施 ひきこもりや社会復帰に向けて活動している者への居場所づくりの一環として、はぴりんバンクでの仕分け作業を実施する。 仕分け作業 年12回</p> <p>4 はぴりんバンクの実施 協定締結団体との連携および寄附により必要な食材、日用品を確保し、配付する。 OK フードドライブ及び子ども食堂への食品等の提供 年12回</p> <p>5 OK フードドライブへの支援 はぴりんバンクの食糧の提供など、OK フードドライブ運営協議会が実施するフードドライブの取り組みを支援する。地域、企業等と協働し、地域づくりの一環として開催支援。 未実施学区での開催支援</p>	<p>1 年3回実施 2回は見守り、3回目は長期、高年齢のひきこもりをテーマに実施</p> <p>2 まち育てセンターりと協働で交流会を1回実施 月1回の調整会議で地域包括支援センターの地域づくりの実績、課題の情報発信等を実施</p> <p>3 年24回実施 毎回3～4名が参加。アルバイトの決定やグループホーム入所などへ繋がった方もあった。</p> <p>4 OK フードドライブ9回、子ども食堂6回、ひとり親のうち生活困窮世帯へのフードドライブ支援4回、他に米配布、被災地へのオムツ支援、個別支援者への食料、日用品支援、就職活動のスーツレンタル支援</p> <p>5 未実施であった矢作学区にて2回実施。企業、大学、中学、民生委員や学区福祉委員、地域包括支援センター等と協働し実施。</p>

【額田支所】

事業総括【地域福祉の充実(地域共生コミュニティづくり)】	
<p>中山間地域である旧額田町では、高齢化や交通手段の減少による移動困難者の増加が今後見込まれる中、各団体・企業と協働して移動困難者支援に繋がる事業を展開した。また、高齢化が岡崎市市内においても特別高い地域であるため、指定管理制度によるデイサービスの提供や学区福祉委員会によるサロン活動への訪問、介護を行う側のリフレッシュ事業など、高齢に関する課題に継続して取り組んだ。</p> <p>この他、高齢による課題以外にも、子どもや若者の課題に対する取り組みとして、子ども食堂の啓発・新規開設に対する後方支援の他、潜在化している不登校・ひきこもりを抱える家族に向けた相談会なども実施した。</p> <p>介護保険・総合支援法に基づくサービスでは、ケアプラン作成については前年度実績を上回り、当初目標も概ね達成できたが、ホームヘルパーの利用については、年度途中において訪問介護職員の職位変更による業務負担増などの結果、全体として前年度実績を下回り、障がい分野の当初目標を達成することができなかった。</p>	
事業計画	成果
<p>1 地域支え合い支援車両 中山間地域の活性化、地域の支え合い活動の支援として、移動困難者に対する車輛の貸出事業を市役所、企業、地元団体と協働し実施 下山学区にて実施</p>	<p>1 貸出実績 94件 161名 登録運転ボランティア 35名</p>
<p>2 ケアプラン作成、ホームヘルパー派遣 (1) ケアプラン受任件数の増 ア 介護プラン 2,500件 イ 予防プラン 900件 (2) ホームヘルパー利用者数の増(障がい分野の強化) 訪問件数 150件</p>	<p>2 (1) ケアプラン受任件数 ア 介護プラン 2,502件(+5) イ 予防プラン 758件(△142) (2) ホームヘルパー件数 訪問件数 91件(△59) (障がい分野<総合支援法>のみ。ただし地域生活支援含む)</p>
<p>3 生きがいづくりや認知症予防のための介護者リフレッシュ事業においてドローン操縦体験の実施 年1回体験実施</p>	<p>3 令和5年12月実施</p>

第2 継続事業の報告

1 組織運営に関すること

(1) 理事会開催状況

- ア 令和5年 第3回理事会
日 時：令和5年6月8日(木) 午前10時時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
報 告：評議員の選任について
会長及び常務理事の職務執行状況について
令和4年度一般会計補正予算(第6号)の専決処分について
議 案：評議員の推薦について
経理規程の一部改正について
就業規則の一部改正について
職員の育児休業等に関する規則の一部改正について
令和4年度事業報告及び収支決算について
令和5年度一般会計補正予算(第1号)
評議員会の開催について
- イ 令和5年 第4回理事会
日 時：令和5年6月26日(月) 午後3時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 案：会長の選出について
副会長の選出について
常務理事の選出について
- ウ 令和5年 第5回理事会
日 時：令和5年12月18日(月) 午前10時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
報 告：評議員の選任について
会長及び常務理事の職務執行状況について
令和5年度一般会計補正予算(第2号)の専決処分について
議 案：評議員の推薦について
評議員選任・解任委員会の選任について
賃金規程の一部改正について
令和5年度一般会計補正予算(第3号)について
評議員会の開催について
- エ 令和6年 第1回理事会(書面決議)
日 時：令和6年1月30日(火)
議 案：評議員会の開催について
- オ 令和6年 第2回理事会
日 時：令和6年3月18日(月) 午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
報 告：評議員の選任について
会長及び常務理事の職務執行状況について
議 案：評議員の推薦について
就業規則の一部改正について
賃金規程の一部改正について
令和5年度一般会計補正予算(第4号)について
令和6年度事業計画及び収支予算について
施設の長他重要な職員の選任について

(2) 評議員会の開催状況

ア 令和5年 第2回評議員会

日 時：令和5年6月26日(月) 午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
報 告：令和4年度一般会計補正予算(第6号)の専決処分について
議 案：理事の選任について
監事の選任について
令和4年度事業報告及び収支決算について
令和5年度一般会計補正予算(第1号)について

イ 令和5年 第3回評議員会

日 時：令和5年12月25日(月) 午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
報 告：令和5年度一般会計補正予算(第2号)の専決処分について
議 案：令和5年度一般会計補正予算(第3号)について

ウ 令和6年 第1回評議員会

日 時：令和6年3月22日(金) 午後2時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
議 案：令和5年度一般会計補正予算(第4号)について
令和6年度事業計画及び収支予算について

(3) 評議員選任・解任委員会開催状況

ア 令和5年 第2回評議員選任・解任委員会

日 時：令和5年6月8日(水) 午後1時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 3階 相談室1
議 案：評議員の選任について

イ 令和5年 第3回評議員選任・解任委員会

日 時：令和5年12月18日(月) 午前11時30分～
場 所：岡崎市社会福祉センター 1階 第2活動室B
議 案：評議員の選任について

ウ 令和6年 第1回評議員選任・解任委員会

日 時：令和6年3月18日(月) 午後4時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 1階 第2活動室A
議 案：評議員の選任について

(4) 監査の開催状況

日 時：令和5年5月31日(金) 午前10時～
場 所：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室A
内 容：令和4年度事業報告について
令和4年度一般会計決算について
令和5年3月31日現在の財産目録及び貸借対照表について

(5) 組織体制の強化

外部講師を招き研修を開催し、職員の資質向上・人材育成に努めた。

ア 働き方改革職員研修

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
講 師：よつば労務管理事務所 社会保険労務士 永谷 律子 氏

開催日	研修内容
令和5年11月24日(金) 令和5年11月30日(木) 令和5年12月4日(月)	職場の課題、解決策を考える ～誰もが生き活きと働き続けられる職場とは?～

イ 人事評価職員研修

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

講 師：あおいと創研株式会社 中小企業診断士 森 正樹 氏

全体研修

令和5年 4月10日(月)	人事評価全体研修
---------------	----------

評価者研修

第1回	令和5年 4月17日(月)	人事評価管理者研修(期首面談)
第2回	令和5年 8月10日(木)	人事評価管理者研修(中間面談)
第3回	令和5年11月27日(月)	人事評価管理者研修(期末面談)

ウ 接遇マナー・クレーム対応研修

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

講 師：株式会社名古屋三越 壬生 実佳子 氏

	開催日	研修内容
接遇マナー研修	令和5年 9月26日(火) 令和5年10月 3日(火) 令和5年10月10日(火)	お客さまに好印象を与える 『ビジネスマナー』講座
クレーム対応研修	令和6年 2月 1日(木) 令和6年 2月 6日(火) 令和6年 2月 8日(木)	ビジネスマナーpartⅡ 『クレーム対応』研修

エ 交通安全研修

開 催 日：令和6年2月16(金)

講 師：中部日本共済組合 契約推進部 竹林 顕 氏

テ ー マ：交通安全について

2 福祉団体助成事業

(1) 法外援護事業

この事業には、共同募金配分金及び歳末たすけあい募金を用いて実施。

ア 低所得者援護

(ア) 就学援助対象者などへのQUOカード配付 (6,000,000円)

(イ) 生活保護・準援護世帯の小・中学校児童生徒に修学旅行援助金を支給
(1,056,970円)

イ 児童福祉

(ア) 保育園卒園児に対する卒園記念品の支給 (346,350円)

(イ) 児童福祉関係の各種団体に対する活動助成 (196,000円)

(ウ) 保育園連絡協議会・保育園父母の会に対する活動助成 (756,000円)

ウ 障がい児(者)福祉

(ア) 身体障がい児(者)、知的障がい児(者)等団体への活動助成 (1,279,000円)

エ 高齢者福祉

(ア) 学区敬老会行事に助成 (8,189,000円)

(イ) 老人クラブ連合会に対する活動助成 (450,000円)

オ 地域福祉

(ア) 民生委員児童委員連絡協議会への活動助成 (1,079,000円)

(イ) 学区福祉委員会への活動助成 (7,275,000円)

(ウ) 地域活動に対する活動助成 (390,000円)

カ その他の援助

(ア) 戦没者慰霊行事への活動助成	(230,000 円)
(イ) 保護司会・更生保護女性会・ボランティア団体への活動助成	(378,000 円)
(ウ) 民間保育園・民間幼稚園に対する設備助成	(927,100 円)
(エ) 福祉施設運営助成	(607,000 円)
(オ) ハッピーリンク助成	(500,000 円)

3 広報・啓発事業

(1) 機関紙の作成頒布

「おかぎきの社協」を年2回発行し、全世帯へ配布した。社協のマスコットキャラクター「はぴりん」を有効活用し、見やすい紙面づくりを心掛けて作成した。

発行月	発行部数
令和5年9月号	156,700部
令和6年3月号	155,400部

(2) ホームページ・SNSによる情報提供

イベント情報や、サービス内容の発信を行うとともに、Facebook、X、Instagramを活用した各種情報の提供を行った。

(3) マスコットキャラクターを利用した広報活動

岡崎市社会福祉協議会応援団に就任したオカザえもんと協力し当会事業の啓発活動を行った。

(4) 他市町村社協との連携強化、広報活動

他市町村社協との連携を深めるため西三河ブロック社会福祉協議会事務局長・担当者会議及び総務担当者会議に出席し、西三河社協間の情報共有・交換に努めた。

4 第4次岡崎市地域福祉計画の推進

第4次岡崎市地域福祉計画期間の2年目となり、希望する学区で計画の評価・分析を行うミソ端会議を実施した。

(1) 小学校区での福祉座談会(ミソ端会議)

第4次岡崎市地域福祉計画内に掲載されている学区(地区)別計画の進捗管理を目的として、学区福祉委員会を始めとした地域住民を対象に福祉座談会を実施した。

令和5年度分の実施状況

単位：名

学区	開催日時	開催場所	参加数
福岡	令和5年12月7日(木)午前10時00分～	市民ホーム	18
羽根	令和5年12月8日(金)午前10時30分～	市民ホーム	13
北野	令和5年12月10日(日)午後4時00分～	市民ホーム	23
根石	令和5年12月11日(月)午後3時15分～	市民ホーム	8
井田	令和5年12月19日(火)午後2時00分～	市民ホーム	24
緑丘	令和6年1月13日(土)午後1時30分～	市民ホーム	20
美合	令和6年1月13日(土)午後2時00分～	市民ホーム	25
広幡	令和6年1月15日(土)午前10時00分～	市民ホーム	23
六ツ美西部	令和6年1月16日(火)午後1時00分～	市民ホーム	20
愛宕	令和6年1月20日(土)午前10時00分～	市民ホーム	18
六ツ美中部	令和6年1月20日(土)午後6時00分～	市民ホーム	26
城南	令和6年1月21日(日)午前10時00分～	市民ホーム	24
六ツ美南部	令和6年1月21日(日)午後4時00分～	市民ホーム	21
細川	令和6年1月25日(木)午前10時00分～	市民ホーム	19
豊富	令和6年1月25日(木)午後6時00分～	こもれびかん	17

学区	開催日時	開催場所	参加数
河合地区	令和6年 1月27日(土)午後 7時00分～	市民ホーム	20
六ツ美北部	令和6年 1月27日(土)午後 2時00分～	市民ホーム	20
常磐南	令和6年 2月 4日(木)午後 8時00分～	市民ホーム	12
岡崎	令和6年 2月10日(土)午前 10時00分～	市民ホーム	37
上地	令和6年 2月10日(土)午後 4時00分～	よりなん	15
宮崎	令和6年 2月12日(月)午後 1時30分～	市民ホーム	17
梅園・小豆坂	令和6年 2月15日(木)午後 1時30分～	市民ホーム	15
矢作東	令和6年 2月15日(木)午後 7時～	やはぎかん	16
下山	令和6年 2月18日(日)午後 2時～	市民ホーム	20
岩津	令和6年 2月19日(月)午後 2時～	市民ホーム	18
小豆坂	令和6年 2月25日(日)午後 1時30分～	市民ホーム	18
矢作南	令和6年 3月 2日(土)午後 1時～	市民ホーム	15

(2) 地域福祉計画事業検討部会の開催

岡崎市と協働で作成した「第4次岡崎市地域福祉計画(計画期間：令和4年度～令和9年度)」推進のため、地域における課題や現在の取組状況についてテーマを定め、事業の検討を行う事業検討部会を設置した。市内の学識経験者、関係団体、大学から委員を構成し、意見交換を図り事業の適正な運営と改善に向けた検討を行った。

ア 第1回

日 時：令和5年9月20日(水) 午後5時～7時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

内 容：岡崎市の地域福祉計画について趣旨説明
地域福祉計画推進委員会と事業検討部会の関係性について
事業検討部会委員の自己紹介

出席者：委員 12名、岡崎市福祉部ふくし相談課3名、当会（総務課7名、地域支援課2名）、実習生3名

イ 第2回

日 時：令和6年1月31日(水) 午後5時～7時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

内 容：多様な担い手を育てよう
～地域支援者を増やそう 参加しやすい環境を考える～

出席者：委員 19名、岡崎市福祉部ふくし相談課3名、当会（総務課7名、地域支援課2名）

5 学区福祉委員会支援

(1) 活動支援

小地域福祉活動の要となる組織として、市内46学区(一部中学校区)に学区福祉委員会が設立された。学区福祉委員会活動における様々な悩みや課題に対し、支援等を行った。

(2) 学区福祉委員会の主な活動内容

ア 高齢者等見守り激励訪問活動

ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦世帯等に対する安否確認と見守り活動

イ 高齢者や世代間交流による会食会の開催

会食会を通し、地域で世代を超えた交流やひきこもり防止のための外出を支援
※コロナ禍ではあるが、感染症対策をしながら再開する学区もあり。

ウ 広報紙「福祉委員会だより」の発行・ホームページやSNSの作成及び更新

地域住民に広く学区福祉委員会への周知と、地域福祉活動への理解と福祉委員会への参加を呼びかける

対 象 者：学区福祉委員会(在宅福祉部会、見守り活動担当者)

1日目	日 時：令和5年11月11日(土) 午後1時30分～3時30分 テーマ：見守り訪問活動の感染症対策について 参加数：10名
2日目	日 時：令和5年11月18日(土) 午後1時30分～3時30分 テーマ：臨床心理士から学ぶ見守り活動のススメ 参加数 11名

エ ふれあい部会向け研修会

サロン活動として、音楽の働きによる協調性や一体感により人が集まる楽しさの効果について学ぶとともに、コロナ禍で中断していたサロン活動の再開にあたり、正しい感染症・衛生対策について学ぶことで福祉委員や地域の方が安心してサロン活動に参加、継続できるように支援する目的に開催した。

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

主テーマ：with コロナ サロン活動のカタチ

講 師：1日目 名古屋芸術大学 音楽領域 准教授 森川 泉 氏

2日目 花王プロフェッショナル・サービス株式会社 大森 美歩 氏

1日目	日 時：令和5年8月18日(金) 午後1時30分～3時30分 テーマ：音楽を使って心から元気になれる活動は？ 参加数：15名
2日目	日 時：令和5年8月25日(金) 午後1時30分～3時30分 テーマ：衛生対策を学び気持ちよくサロン活動を開催しよう 参加数：17名

オ 地域福祉リーダー養成塾

安心して暮らせるまちづくりをめざす地域福祉活動において、重要な位置にあたる学区福祉委員会やボランティア団体をまとめるリーダーとして求められる、ビジョンの作成や啓発、実践、またリスク管理など組織運営のポイント及び、新たな活動を立ち上げ、取り組みを始めた実践者からのノウハウを学ぶとともに、市内の地域福祉活動に取り組んでいる受講者間での交流を通じ、社会環境が目まぐるしく変化する中においても柔軟かつ活発な地域福祉活動を推進できるリーダー的な人材を養成する目的で実施した。

17名修了。

1日目	日 時：令和6年1月27日(土) 午後1時30分～4時 会 場：崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：地域福祉ボランティア活動で起きやすいトラブルについて 講 師：加藤法律事務所 弁護士 加藤 雄 氏(愛知県弁護士会所属)
2日目	日 時：令和6年2月10日(土) 午後1時30分～4時 会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：第1部 学生による地域貢献、社会貢献の活動について 第2部 ヤングケアラー版クロスロードゲーム体験 講 師：名古屋学院大学現代社会学部 講師 澤田 景子 氏 名古屋学院大学学生有志ヤングケアラー啓発チーム 「BE HAPPY」の皆さん
3日目	日 時：令和6年2月24日(土) 午後1時30分～4時 会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：地域福祉を担うリーダーに必要な知識について、 組織論・医療福祉経営論の観点から学ぼう 講 師：日本福祉大学経済学部 招聘教授 若山 雅博 氏

- (5) 学区福祉委員会へ広報紙の発信
 学区福祉委員会へ年3回の広報紙「福祉かわら版」を発信し周知した。
 第32号 発行日：令和5年6月13日 総会にて配布
 第33号 発行日：令和5年11月21日 語ろう会にて配布
 第34号 発行日：令和6年3月5日 連絡会にて配布
- (6) 学区福祉委員会補助金「会計確認」の実施
 市の補助金並びに共同募金配分金が適正に処理されているか、また運営上有効に使われているかを確認するため、46学区福祉委員会すべてにおいて「会計確認」を実施した。9支所管内ごとに日程や会場を設定し会計確認を実施した。

6 学区福祉委員会連絡協議会主催事業の支援

- (1) 学区福祉委員会連絡協議会
 学区福祉委員会相互の連絡調整や情報の共有化を図り、学区の福祉活動を推進することを目的とし実施した。
- ア 役員会
 第1回 日 時：令和5年5月31日(水) 午後1時30分～
 会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
 議 題：総会に諮る議案の確認
 第2回 日 時：令和6年2月14日(水) 午後2時～
 会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
 議 題：連絡会の議題と資料の確認について
 学福連設立15周年記念事業について
- イ 総 会
 日 時：令和5年6月13日(火) 午前10時～
 会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
 議 案：事業報告、新役員選任、事業計画等
- ウ 連絡会
 日 時：令和6年3月3日(火) 午後1時30分～
 会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
 議 題：補助金実績報告、補助金交付申請、次年度事業予定等
- (2) 語ろう会(学区福祉委員会連絡協議会主催) >
- ア 事前打合せ(担当役員)
- 1回目 令和5年7月13日(木) 午後1時30分～午前10時
 岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
- 2回目 令和5年8月16日(水) 午前10時～午後2時
 岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室、第1活動室
- 3回目 令和5年9月6日(水) 午前10時～午後2時
 岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室、2階 多目的室A

イ 開催内容

1回目	<p>～在宅福祉活動の担当者あつまろまい～ 開催日：令和5年9月22日(金) 会場：社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：訪問活動の情報共有について聞こう 事例発表：細川学区福祉委員会 副委員長兼在宅福祉部長 大水 直人 氏 福岡学区福祉委員会 在宅福祉部会 部長 塚本 春雄 氏 担当役員：天野副会長、川澄幹事、小山幹事</p>
2回目	<p>～ふれあい活動の担当者あつまろまい～ 開催日：令和5年10月20日(金) 午後1時30分～3時30分 会場：社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：地域交流について考えよう！ 事例発表：六ツ美南部学区福祉委員会 副委員長 山本 達夫 氏 竜美丘学区福祉委員会 地域ボランティア活動部 小野塚 和子 氏 夏山学区福祉委員会 宇野 伸子 氏 北野学区福祉委員会 委員長 深川 勇二 氏 担当役員：梅田副会長、杉田幹事、木内幹事</p>
3回目	<p>～広報・研修活動の担当者あつまろまい～ 開催日：令和5年11月21日(火) 午後1時30分～3時30分 会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室 テーマ：広報誌をずっと読まれるヒケツ 事例発表：矢作東学区福祉委員会 広報部会長 生駒 義雄 氏 担当役員：長坂会長、平松副会長、加藤事務局長</p>

7 重層的支援体制整備

(1) 伴走型支援業務

岡崎市に設置された福祉総合相談窓口にて、複合課題を抱えながら必要な支援が届いていない世帯や本人に対する支援や、アウトリーチ等を通じ、本人のニーズや課題を把握し、福祉課題を抱えた方々に必要な支援が届く支援体制整備に取り組んだ。また、地域福祉の学びとして「地域福祉講座」を開催。その他、岡崎市と連携しフードドライブを実施した。

ア アウトリーチ：延人数 238名(新規 34名、終結 16名)

参加支援：延人数 58名(新規 7名、終結 3名)

イ 対応件数属性分類

単位：件

ひきこもり	若者	生活困窮	生活保護	ひとり親
499	375	103	19	25
障がい(精神)	障がい(知的)	障がい(身体)	障がい(疑い)	司法関係
361	1	33	388	41
難病	外国人	ゴミ屋敷	高次機能障害	安否確認
46	3	9	171	10

※重複あり

(2) 地域福祉講座の実施

身近な福祉課題を取り上げ、現状や課題を学ぶ機会として、地域福祉講座を2つのテーマで3回実施。組織的な見守り活動の意義の再確認、普段の暮らしの中での自然な見守り・見守られる関係性を超える意義について学び、地域で支え合うことについて市民とともに考える機会を目的とし、見守りをテーマに2回コースで実施。

3回目は、長期・高年齢のひきこもる方や家族の支援者向けに連携の強化、多世代支援に向けた専門職のスキルアップを目的に長年実践、研究をされている講師を招き、講座を実施した。

第1・2回

主テーマ：見守りの本質を考える～これからの地域支えあいに向けて～

対象者：学区福祉委員、民生委員、地域包括支援センター、ボランティア等の地域支支援者、一般住民

ア 第1回【オンライン講演会】

日時 令和5年10月29日(土) 午後1時30分～3時30分

会場 サテライト会場【岡崎市社会福祉センター、北斗台会館(細川町)】

講師 ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

参加者 87名(オンライン39名、福祉センター21名、北斗台会館27名)

イ 第2回 講義&ワークショップ

日時：令和5年12月10日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

講師：ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

発表者：井田学区福祉委員長 山田 實 氏

籠田公園ラジオ体操 世話役 千賀 亮治 氏

ヤマト運輸株式会社 三河法人営業支店 和田 徳嗣 氏

参加者：40名

ウ 第3回 ひきこもり支援講演会

日時：令和6年2月17日(土) 午後1時30分～3時30分

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テーマ：長期・高年齢のひきこもる人の理解と支援～「生き方支援」を考える～

講師：日本福祉大学名誉教授 竹中 哲夫 氏

対象者：地域包括支援センター職員、介護支援専門員、介護サービス事業所職員、相談支援事業所職員、障害サービス事業所職員、子ども若者総合相談センター職員、スクールソーシャルワーカー、市民活動団体等の支援者

参加者：36名(会場10名、ZOOM26名)

(3) 重層的支援体制整備(フードドライブ)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、生活が厳しくなった生活困窮者への支援を岡崎市と連携し実施した。

ア 第1回(実施主体：岡崎市社会福祉協議会)

実施期間：令和5年4月

支援先：子ども食堂

支援物品：米5kg×117袋(他、年度内4回実施)、調味料等の食品、お菓子等

イ 第2回【支援品受付】(実施主体：OKフードドライブ実行委員会)

共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会

協 力：シーホース三河

実施日：令和5年4月22日(土)・23日(日)

回収場所：中央総合公園(高隆寺町・シーホース三河)

回収物品：食品等 319品目、総量約60kg

- ウ 第3回(実施主体：0K フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：フタバ産業株式会社、マルヤス工業株式会社、FC マルヤス岡崎、
 愛知学泉、短期大学生活デザイン総合学科、矢作北地区民生委員・
 児童委員協議会、はしめ地域包括支援センター
 実 施 日：令和5年6月24日(土)
 配布場所：愛知学泉短期大学(触越町)
 支援物品：食品等 300 セット(企業や個人からの寄付品)
- エ 第4回【支援品受付】(実施主体：岡崎西高等学校 PTA)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 実 施 日：令和5年9月14日(木)
 回収場所：岡崎西高校(日名南町)
 回収物品：食品等 167 品目
- オ 第5回【支援品受付】(実施主体：0K フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：マルヤス工業株式会社、FC マルヤス岡崎
 実 施 日：令和5年9月16日(土)
 回収場所：岡崎市龍北総合運動場(真伝町)
 回収物品：食品等 48 品目
- カ 第6回(実施主体：0K フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 実 施 日：令和5年11月12日(日)
 配布場所：豊富小学校駐車場(檜山町)
 支援物品：食品等 100 セット(企業や個人からの寄付品)
- キ 第7回(実施主体：0K フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 実 施 日：令和5年11月23日(木)
 配布場所：東部地域福祉センター
 支援物品：食品等 100 セット(企業や個人からの寄付品)
- ク 第8回(実施主体：0K フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：フタバ産業株式会社、マルヤス工業株式会社、FC マルヤス岡崎、
 三菱自動車工業株式会社、三菱自動車エンジニアリング株式会社、
 愛知学泉短期大学生活デザイン総合学科、矢作北地区民生委員・児
 童委員協議会、矢作北中学校、はしめ地域包括支援センター、やは
 ぎ苑地域包括支援センター、西部地域包括支援センター
 実 施 日：令和5年11月25日(土)
 配布場所：愛知学泉短期大学(触越町)
 支援物品：食品等 300 セット(企業や個人からの寄付品)
- ケ 第9回(実施主体：0K フードドライブ実行委員会、六ツ美北部小学校 PTA)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 実 施 日：令和5年12月2日(土)
 配布場所：六ツ美北部学区市民ホーム
 支援物品：食品等 100 セット(企業や個人からの寄付品)

- コ 第10回(実施主体：南部地域福祉センター、OK フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：南部地域包括支援センター
 実 施 日：令和5年12月25日(月)
 配布場所：南部地域福祉センター(下青野町)
 支援物品：食品等100セット(企業や個人の寄付品、イベント参加者)
- サ 第11回(実施主体：高年者センター岡崎、OK フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：高年者センター岡崎地域包括支援センター
 実 施 日：令和6年2月3日(土)
 配布場所：高年者センター岡崎(美合町)
 支援物品：食品等150セット(企業や個人の寄付品)
- シ 第12回(実施主体：中央地域福祉センター、OK フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：中央地域包括支援センター
 実 施 日：令和6年3月17日(日)
 配布場所：中央地域福祉センター(梅園町)
 支援物品：食料品等100セット(企業や個人の寄付品)
- ス 第13回(実施主体：奥殿春まつり実行委員会、OK フードドライブ実行委員会)
 共 催：岡崎市・岡崎市社会福祉協議会
 協 力：北部地域包括支援センター
 実 施 日：令和6年3月23日(土)
 配布場所：奥殿小学校体育館(奥殿町)
 支援物品：食料品等150セット(企業や個人の寄付品)
- セ その他【個別配布】
 実施期日：1月
 協 力：地域包括支援センター、障がい支援事業所、ケアマネジャー、
 民生委員児童委員、スクールソーシャルワーカー
 支援物品：米5kg×350袋

(4) 重層的支援体制整備事業(額田福祉総合相談窓口(「ふくまど」))

岡崎市額田センター・こもれびかんに、額田地域包括支援センターと連携し、額田地域の世代や属性、相談内容に関わらず包括的に相談を受け止める福祉相談窓口「ふくまど」を設置。重層的支援事業の伴走型支援として、アウトリーチ等を通じた継続的支援、参加支援事業を行い、介護、障がい、子育て、生活困窮など既存の制度単体では対応が困難なケースに対して、関係機関と協力し継続的に本人や家族等に働きかけするなどして支援を実施した。また、必要な支援が届いていない人へ支援を届けるため、地域との関係づくりに取り組んだ。

ア 相談実人数 197名

イ 相談内訳

単位：件

対応方法	件数	相談内容	件数
窓口	147	介護	122
訪問	306	病気・医療	167
電話(受電)	372	障がい	477
電話(架電)	177	生活・生活困窮	993
		その他	201
合計	1,002	合計	1,960

※件数は延べ。相談内容については重複あり

(5) 地域づくりを支援するための活動の実施

ア 「ふくまど通信」による額田福祉総合相談窓口「ふくまど」の周知活動

福祉活動の啓発の一環として「ふくまど通信」を作成し、額田地区全戸への回覧を総代会に依頼すると共に、地域へのアウトリーチの際に個別に配布した。福祉総合相談窓口「ふくまど」の機能紹介と、地域活動や地域福祉に関する様々な情報発信及び啓蒙に努めた。また、地域住民に対し福祉の相談窓口であることを幅広く周知するとともに、困った時にすぐに連絡できるよう、「ふくまどステッカー」を継続して配布した。また、今年度「ふくまど」の Instagram を立ち上げ、情報発信や周知に努めた。

「ふくまど通信」の発行	年2回、1回500部(累計1,000部)
ふくまどステッカーの配布	総代、民生委員児童委員、学区福祉委員など

イ 地域へのアウトリーチ活動

学区福祉委員会が主催するサロン活動や地域住民による介護予防のための自主活動「ごまんぞく体操」等に参加し、顔の見える関係づくりの構築と共に、地域共生に向けた地域づくりのための福祉啓発や地域福祉に関する情報提供を実施した。また、北部・宮崎診療所と連携し、研修医によるミニ健康講座を実施した。さらに今年度より潜在化しやすいニーズの掘り下げとして、ひきこもり家族相談会や市民病院認定看護師の講座、子ども(地域)食堂立ち上げ・継続支援を実施した。子ども(地域)食堂については、形埜学区と夏山学区でプレ開催を行い計3か所の新規立ち上げにつながった。その他、福祉総合相談窓口「ふくまど」に持ち込まれる課題に対し、アウトリーチなどを実施し多機関と連携して対応などを協議した。

福祉啓発や各種講座	実施	延べ参加人数
サロン活動	18箇所 23回(延べ)	177名
ごまんぞく体操	9箇所 10回(延べ)	83名
認定看護師講座	2箇所 2回()	98名
ひきこもり家族相談会	1箇所 3回(延べ)	8名
プレ子ども(地域)食堂	2箇所 2回()	288名
その他(※)	4箇所 15回(延べ)	252名
合計	36箇所 55回(延べ)	906名

※ふれあいデイサービス、くつろぎルームたんぽぽ ほかを指す

ウ 地域協議会の開催

額田地区の人と人、人と資源が世代や分野を越えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく地域共生社会を目指し、額田地域全体で情報共有や意見交流をすることを目的に地域活動者、福祉・介護従事者、行政等に呼びかけ「地域協議会」を開催した。協議会では生活に困りごと等の課題を抱えた個別支援について事例を通して学びや気づきを共有した。また、額田でのコロナ後の地域活動紹介や同じ中山間地域の先進事例を通じて、額田地区での共生社会を実現していくため、地域でのつながりや支え合いの必要性について確認し、今後の目指す姿を共有するなど協議を重ねた。

(ア) 第1回地域協議会

日 時：令和5年7月24日(月) 午後1時30分～3時

会 場：豊富学区市民ホーム 大会議室

テーマ：「高齢者の危険な運転」の事例から考える地域課題

グループワーク：

事例を通じて、課題の共有とそれぞれの立場でできることを考えるコロナ後の地域活動紹介

【活動紹介者】

こもれば 카페 平松 はやみ 氏
 ジョイアスカフェ 深川 善則 氏
 YAMABIKO 食堂 遠山 正 氏
 ふくし相談課 酒井 望帆 氏
 福祉総合相談窓口 水野 良一 氏

参加者：額田5学区の総代会長、各学区社教委員長、各学区福祉委員長、民生委員児童委員正副会長、地域医療機関、基幹型地域包括支援センター、福祉関係事業所(高齢者施設、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所)、岡崎市職員 計30名

(イ) 第2回地域協議会

日時：令和5年12月5日(火) 午後1時30分～3時
 会場：岡崎市額田センター こもればかん 集会室A・B
 講話：中山間地区の支え合い拠点「しきしまの家」
 講師：しきしまの家運営協議会副代表 板倉 小夜子 氏

総括：岡崎市福祉部ふくし相談課 次長 齊藤 哲也 氏

参加者：額田5学区の総代会長、各学区社教委員長、各学区福祉委員長、民生委員児童委員正副会長、基幹型地域包括支援センター、福祉関係事業所(高齢者施設、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所)、岡崎市職員

その他：アンケート実施 計25名

(6) 移動支援・買い物支援

中山間地域における移動手段や買い物の不便さの解消を目指し、移動支援車両貸出事業、ふれあいデイサービスの買い物支援事業を開始した。

また、岡崎市及び愛知ダイハツ株式会社と連携し、ダイハツ製福祉車両を無償で借り受け、下山学区地域づくり協議会と連携し、地域支え合い事業として車両貸出事業を実施した。また旧額田町内にあったタクシー会社の業務廃止の影響を考慮し地元中学生の支援として学生送迎にも活用した。

ア 移動支援・地域支え合い福祉車両稼働実績

事業名	利用件数	利用人数	利用目的
移動支援車両貸出	19件	48名	地域活動参加など
地域支え合い福祉車両貸出	94件	161名	受診・買い物・学生送迎など

イ ふれあいデイサービス買い物支援事業実績

	支援回数	利用者数	買物金額
年間実績	73回	471名	488,512円

※事業は毎月実施

8 子ども食堂支援事業

(1) 子ども食堂支援事業

令和5年度においては、新たに市内9箇所において子ども食堂が立ち上がり、計32箇所(令和6年3月31日現在)において子ども食堂が運営された。子ども食堂新設に向けての相談や立ち上げから運営に向けてのサポートなど、継続的な子ども食堂運営の支援を行った。

また、既存の子ども食堂においても、運営者の日々の相談や企業からの食糧支援物資・寄附金の橋渡しなど多岐に渡るサポートを行った。

この他、市民向け講座として、子ども食堂における防災意識向上を目的とした研修会を開催。子ども食堂実践者向け講座として、岡崎市こども部家庭児童課、子育て支援室、福祉部ふくし相談課、西三河児童・障害者相談センターの協力のもと、子ども食堂と行政機関が連携し、見守りを必要とする人への対応を考える機会を設けた。

(2) 新設子ども食堂数 市内9箇所

(3) 市民向け講座

日 時：令和5年10月18日(土) 午後1時30分～4時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テ ー マ：子ども食堂×防災～もしもに備える防災講座～

講 師：認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ

防災士 森谷 哲 氏

事例発表：コミュニティカフェ「いちほし小町」 月東 佳寿美 氏

みんなのこども食堂 小松 恵利子 氏

パネルディスカッション：

パネラー 森谷 哲 氏(講師)、月東 佳寿美 氏、小松 恵利子 氏(事例発表者)

ファシリテーター 認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ 久保井 千勢 氏

参加者：20名

(4) 子ども食堂実践者向け講座

日 時：令和6年1月31日(水) 午後1時30分～4時

会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

テ ー マ：子ども食堂地域連携会議

説明者：岡崎市こども部子育て支援室ひとり親支援係 杉浦 真生 氏

岡崎市こども部家庭児童課児童相談係 係長 磯谷 隆文 氏

岡崎市福祉部ふくし相談課つながり支援係 係長 永田 享之 氏

西三河児童・障害者相談センター

自立支援コーディネータ 安田 信子 氏

参加者：20名

9 ボランティア事業

ボランティア活動への関心を高め、参加しやすい環境づくりを目的に、福祉体験活動や、各種ボランティア講座などの福祉事業を実施した。

(1) 市民啓発事業

ア 岡崎市災害ボランティア支援センター設置・運営訓練

日 時：令和5年12月2日(土) 午前9時～午後4時

会 場：岡崎中央総合公園弓道場・アーチェリー場

イ 豊富学区福祉防災講座

開催日：令和5年12月3日(日)

会 場：岡崎市額田センターこもれびかん

内 容：防災講話、防災寸劇、ワークショップなど各種プログラムを通して、参加者の日頃からの防災に対する心構えと意識の向上を目指した。

参加者：21名

- ウ 福祉関係紹介情報誌「ふれあいのまち岡崎」の発行
配布先 市内各市民センター、市政情報コーナーなど
部 数 1,500冊
- エ ボランティアセンター情報誌「neco」の発行
配布先 ボランティア活動希望者、市内の大学、地域交流センターなど
部 数 隔月600部(累計3,600部) SNSを活用し、ペーパーレス化を図った。
- オ ボランティア紹介ビデオや福祉ビデオ、DVD、図書、活動機材などの随時貸出
- カ ホームページ、ブログ、Facebook、Xの更新、LINEなど SNSを活用した情報提供
- キ 企業の社会貢献(CSR)事業への協力・支援
相談企業数 2件
出張講座実施数 18件

(2) 養成・研修会事業

ア ボランティア講座

- (ア) 災害ボランティアコーディネーター養成講座(全3回)
開催日：令和5年10月7日(土)・14日(土)・21日(土)
会 場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室
参加者：17名
- (イ) 災害ボランティアコーディネーターフォローアップ講座
開催日：令和6年2月17日(土)
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
参加者：17名
- (ウ) ボランティア入門講座
日 時：令和5年7月22日(土) 午後2時～3時30分
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第1活動室
参加者：計7名
- (エ) ボランティアセンター登録団体会員向けボランティアフォローアップ研修
開催日：令和5年7月9日(日)、7月29日(土)、令和6年1月20日(土)
会 場：7月9日 岡崎市社会福祉センター 1階 ボランティアセンター
7月29日 オンライン(ZOOM)
1月20日 岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

イ 支援員養成講座

- (ア) 手話奉仕員養成講座(全40回)
期 間：令和5年4月13日(木)～令和6年3月7日(木)
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
修了者：18名
- (イ) 要約筆記者養成講座(全22回)
期 間：令和5年6月8日(火)～令和5年12月7日(火)
会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室
修了者：7名

(3) ボランティアセンターの運営

ボランティア相談やボランティアコーディネートの充実のため、専任の職員をボランティアセンターに配置し、個人並びに団体、施設等からの依頼に応えるとともに、毎月1回のコーディネーター会議と随時ミーティングを実施し、情報の共有と課題の改善、今後の対応について話し合いを行った。また、コーディネーターがボランティア依頼元に出向き、意見や要望を聞くことで日頃のコーディネート業務やボランティア団体との対応に活かすことができた。

ア ボランティアセンター来訪者数 1,557名

イ ボランティアセンター運営委員会

(ア) 開催日：令和5年12月22日(木)

会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室

内 容：令和4年度ボランティアセンター事業報告

災害ボランティア支援センター活動報告について

参加者：運営委員12名、当会総務課6名

(イ) 開催日：令和6年3月26日(火)

会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室

内 容：令和6年度ボランティアセンター推進計画策定について

参加者：運営委員12名、当会総務課6名

ウ ボランティア登録状況

項目	サークル数	人数
団体	64団体	1,170名
個人	—	168名
計	64団体	1,338名

エ ボランティアコーディネート状況

依頼元	依頼件数	延派遣・紹介数
高齢者施設	15件	25件
児童福祉施設	8件	8件
病院・保健所	1件	1件
学校・地域・企業	2件	1件
障がい者施設	12件	12件
福祉団体・サークル	5件	10件
社協・行政	1件	1件
個人	8件	4件
その他	1件	1件
合計	53件	63件

オ ボランティア活動希望者状況

相 談 受 付 360件(ボランティア養成講座申込者など含む)

コーディネート 168件

カ 「福祉施設向けボランティア受け入れのポイント」リーフレットの配布

配布先：ボランティアセンターに依頼のある施設ほか

キ 第4次ボランティアセンター推進計画の推進

(4) 福祉教育事業

児童・生徒のボランティア活動への参加促進や、福祉への理解者の底辺を広げることを目的に、福祉教育推進事業として福祉教育推進校を指定し、福祉実践教室や福祉教育プログラムなどを通し、福祉の現状や活動の心構えなどを学ぶ機会づくりに努めた。

ア 福祉教育推進校

補助金 上限 30,000 円(旧額田町指定校からは市からの補助)

指定期間 単年度とし継続する

指定校 学校数 小学校 45 校
 中学校 16 校
 高等学校 7 校
 支援学校など 5 校(※1)
 計 73 校

※1 岡崎盲学校・岡崎聾学校・岡崎特別支援学校・愛知教育大学附属特別支援学校・愛知県立みあい特別支援学校

イ 担当会議

日時：令和5年5月10日(金) 午後4時～5時

会場：オンライン(ZOOM)

ウ 福祉実践教室の実施学校

実施校 市内小・中・高等学校 17 校で 28 日実施(複数回開催校含む)

エ 福祉教育プログラムの実施学校

実施校 市内小・中・高等学校 13 校で 103 日実施(複数回開催校含む)

オ 福祉実践教室教員向け研修会

開催日：令和5年8月4日(金)・8日(火)

会場：岡崎市社会福祉センター 1階 第3活動室

内容：児童・生徒の福祉学習がより効果的に行われるように、児童・生徒の福祉実践教室で行われている科目を教員に受講してもらい、学校で行われている福祉教育に関して指導者としての基礎知識と留意点などを学んだ。

開催日		内容	参加者数
令和5年 8月4日(金)	午前	発達障がい・いじめ防止	150名
	午後	体験視覚障がいに関すること (点字・視覚障がいガイド・盲導犬)	9名
令和5年 8月8日(火)	午前	聴覚障がいに関すること (要約筆記・手話)	11名
	午後	高齢者疑似体験・車いす・ふくし	11名

カ 福祉実践教室副読本「ぼく・わたしにできること」の作成・配付

福祉実践教室の充実のため、福祉実践教室の講師団体の協力のもと、岡崎市オリジナルの副読本を製作し、実践教室に取り組む児童へ無料配付した。

キ 福祉実践教室講師団体連絡会議

期 日：令和6年3月14日(木) 午後2時～4時

会 場：岡崎市社会福祉センター 1階 第1活動室

内 容：福祉実践教室・福祉教育プログラム実施状況の報告、講師団体からのアンケート結果の報告及び令和6年度福祉教育関連事業などの説明

(5) 災害ボランティア

ア 災害ボランティア支援センター協定締結団体会議

協定団体が被災地支援に出向いており延期とした。

イ 登録災害ボランティアコーディネーター用公式 LINE アカウント及び Google フォームの運用

内 容：岡崎市災害ボランティア支援センターの機能を円滑にするため、公式 LINE アカウントと Google フォームを活用し訓練を実施した。

(6) 家庭体験事業

児童養護施設岡崎平和学園及び米山寮の児童が心身ともに健やかな成長をするための一助として、一般家庭における生活体験の機会と共に、施設と地域との連携強化を進めた。

10 共同募金委員会

(1) 実績

区分	実績額(円)	主な使途内容
赤い羽根募金 (一般募金)	23,903,038	学区福祉委員会への活動費、事業費 障がい児(者)団体・施設などへの補助金 保育園卒園児に卒園記念品を支給 敬老会行事への助成費 児童福祉団体・施設などへの補助金 私立保育園・幼稚園への助成費
歳末 たすけあい募金	11,697,037	就学援助対象児童・生徒へ QUO カード配付 地域福祉活動への支援
合計	35,600,075	

(2) 種別実績

単位：円

区 分 募金種別	募金実績額			参考
	赤い羽根	歳末たすけあい	募金合計	前年比較
戸別募金	17,156,137	11,437,405	28,593,542	△1,578,513
街頭募金	400,012	0	400,012	178,303
法人募金	2,978,008	0	2,978,008	△118,259
学校募金	1,726,443	0	1,726,443	△104,969
職域募金	1,025,994	0	1,025,994	△216,074
個人募金	3,000	0	3,000	△28,752
その他の募金	613,444	259,632	873,076	△209,842
合計	23,903,038	11,697,037	35,600,075	△2,078,106

(3) 取組内容

区分	内容
戸別募金	市民向けチラシ(町内回覧)による啓発
街頭募金	ボランティア 202 名の協力により市内 14 箇所で実施
法人募金	民生委員児童委員の協力により市内企業へ訪問依頼 940 件協力
学校募金	市内の小・中・高・大学・短大・専門学校へ依頼
職域募金	企業内組織、組合などへ依頼
個人募金	2 件
その他の募金	募金箱 67 箇所設置(市内スギ薬局及びドミー各店舗ほか)

(4) 令和5年度第75回赤い羽根協賛児童・生徒作品コンクール

ア 表彰式

赤い羽根協賛児童・生徒作品コンクールにおいて優秀な成績を収められた小・中学校の児童・生徒に対して表彰式を実施した。

日時：令和5年12月5日(木) 午後4時30分～5時

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

受賞者：愛知県共同募金会
愛知県知事賞 1名(書道の部)
審査員特別賞 1名(ポスターの部)
金賞 1名(書道の部)
銀賞 2名(書道の部)
岡崎市共同募金委員会 金賞 6名(書道の部)
金賞 9名(ポスター部)

イ 優秀作品展示

市内・小中学校から推薦された児童・生徒の作品展示を実施した。

期間：令和5年11月22日(水)～11月26日(日) 会場：岡崎市美術館 2階 第4展示室 展示数：436点(書道308点、ポスター128点) 各小・中学校から推薦された全作品を展示
期間：令和6年1月13日(土)～1月23日(火) 会場：エルエルタウン 2階 特設会場 展示数：28点(書道20点、ポスター8点) エルエルタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期間：令和6年1月20日(土)～2月4日(日) 会場：ウイングタウン 2階 西松屋前 展示数：53点(書道38点、ポスター15点) ウイングタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期間：令和6年1月25日(木)～2月13日(火) 会場：エルエルタウン 2階 特設会場 展示数：38点(書道24点、ポスター14点) エルエルタウンの近隣小・中学校から推薦された作品を展示
期間：令和6年3月2日(土)～3月18日(月) 会場：岡崎市北部地域交流センターなごみん 3階 展示スペース 展示数：90点(書道69点、ポスター21点) なごみんの近隣小・中学校から推薦された作品を展示

(5) 赤い羽根フェスタ～じぶんの町を良くする集い～

赤い羽根共同募金運動への理解の促進、募金の使いみちの透明化を図ることを目的に、共同募金に関する事業である。

開催日：令和6年2月3日(土)

会場：岡崎市社会福祉センター

内容：岡崎市福祉ハッピーリンク活動助成事業公開プレゼンテーション審査、福祉講演会、授産製品の販売等

(6) 令和6年度助成 岡崎市福祉ハッピーリンク活動助成事業

赤い羽根共同募金配分事業の一環として、市内で取り組まれる先駆的で優先度が高いと思われる福祉活動に対し助成をする事業であり、共同募金の配分先の透明化を図るため、この事業に申請する団体の審査をするにあたり、公開プレゼンテーションを実施した。助成が決定した団体には、令和6年度に助成金を交付する。

募集期間：令和5年7月10日(月)～9月8日(金)
 対象団体：市内で活動する非営利の団体(ボランティアグループ、NPO法人、福祉団体、小・中学校、高等学校、短期大学、専修学校、大学)
 対象事業：地域福祉の推進の視点から地域住民を対象に、住民の福祉の向上に資する事業で、令和6年4月1日から令和7年3月31日までに実施する事業
 第1次審査：書類審査(令和5年9月27日(水))
 第2次審査：公開プレゼンテーション
 (令和6年2月3日(土) 岡崎市社会福祉センター)
 第3次審査：助成額の査定・結果発表
 (令和6年2月3日(土) 岡崎市社会福祉センター)
 申請団体：5団体
 助成決定団体：5団体
 助成総額：784,400円

11 家計相談支援(生活困窮者自立支援事業)

生活困窮者自立支援事業の利用者のうち、家計収支の均等が取れていないなど金銭管理に課題を抱えている世帯に対し、相談者とともに自身の家計収支についての課題を把握し、家計の再生に向けた具体的な方針を立て、相談者自ら家計管理ができるように支援を実施した。

相談数	家計プラン	方法			内容		
		面談	電話	訪問	困窮	家計	貸付
405件	13件	213件	160件	32件	24件	284件	101件

12 各種サービス

(1) 手話通訳・要約筆記者等派遣事業

ア 手話通訳者実績(括弧内は愛知県聴覚障害者協会派遣人数)

項目	件数	項目	件数
病院・健康	333件	団体活動	12件
学校・教育	165件	市・事業団	161件
地域・ボラ	14件	その他	63件
就労関係	3件	派遣件数合計	773件
住宅関係	18件	派遣人数合計	851(154)名
公的・銀行	4件	※キャンセル39件は表中に含まず	

イ 要約筆記者等実績(括弧内はパソコン要約筆記者派遣件数)

項目	件数	項目	件数
病院・健康	0件	団体活動	14件
学校・教育	3件	市・事業団	30件
地域・ボラ	3件	その他	3件
就労関係	0件	派遣件数合計	53(26)件
住宅関係	0件	派遣人数合計	92名
公的・銀行	0件	※キャンセル1件は表中に含まず。	

(2) 声の広報発行事業

市内在住の目の不自由なかたを対象に「市政だより」「市議会だより」を音訳・点訳し、CD・点字を届けた。

ア 市政だより(毎月1日号)

※広報あいち 年6回偶数月に発行 市政だよりと一緒に送付

イ 市議会だより(5月、8月、11月、12月、2月)

区分	市政だより	市議会だより	選挙広報
協力ボランティア	102名	15名	0名
利用者	396名	168名	0名

(3) おもちゃ図書館事業

心身障がい児とその家族などに、おもちゃと遊び場を提供し、同年齢の子ども達と遊ぶ機会が少ない児童にこの事業を通して同世代との遊びによる社会性の発展及び情緒性の成長を促すことを目的に事業を実施した。

開催日 毎月1回(第2土曜日 午前9時30分～12時30分)

会場 遊びと学びの教室きらキッズ

実績

項目	開催数	子ども	大人	合計
おもちゃ図書館	11回	81名	75名	156名
料理コース	3回	40名	16名	56名
クリスマス会	1回	45名	26名	71名
スタッフ・ボランティア				283名

※スタッフ、ボランティアは各事業の事前準備の従事者数も含む

(4) 地域福祉活動備品貸出事業

岡崎市内で地域福祉活動に携わるグループや団体の支援、また地域福祉活動の活性化を図ることを目的に、岡崎市内でサロン活動などを行うグループや団体を対象として、レクリエーション用品やパソコン、プロジェクターの貸出を行った。

区分		本部	額田支所	合計
利用団体	学区福祉委員会	23件	3件	26件
	ボランティアセンター登録団体	11件	4件	15件
	企業・施設	1件	0件	1件
	老人クラブ	7件	1件	8件
	その他(個人)	0件	0件	0件
利用件数合計		42件	8件	50件

※本部は岡崎市社会福祉センターを指す

(5) 車いす無料貸出事業

介護保険サービスで車いすを借りることができない方、介護保険認定申請中の方、介護保険を使っていない方、短期の使用(旅行など)やケガなどで車いすが必要なかたを対象に貸出を行った。

事業所	件数
岡崎市社会福祉センター	254件
額田支所	22件
合計	276件

(6) 福祉車両の貸出

ア 日常的な外出時に車いすを利用する高齢者及び身体障がい者(児)が、体力の維持向上や社会的見聞を広めるための支援並びに社会参加を促進することを目的に貸出をしている。

区分		本部	額田支所	合計
利用目的	病院・福祉施設などへの送迎	83名	53名	136名
	地域の行事・会議などの参加	0名	0名	0名
	慶弔時	0名	0名	0名
	その他	35名	5名	40名
利用件数合計		118名	58名	176名

※本部は岡崎市社会福祉センターを指す

イ 額田支所移動支援車両貸出事業

移動支援車両の利用は、額田地域に在住する高齢者、子ども、障がい者、低所得者などの交通弱者であって日常的に移動が困難な者などが、体力の維持向上や社会的見聞などを広めるための支援並びに社会参加を促進することを目的に事業を展開した。また、岡崎市、愛知ダイハツ株式会社、下山学区地域づくり協議会と協働し、下山学区内の移動困難者に対する移動支援事業「地域支え合い福祉車両貸出」に取り組んだ。

移動支援・地域支え合い福祉車両稼働実績(再掲)

事業名	件数	人数	利用目的
移動支援車両貸出	19件	48名	地域活動参加など
地域支え合い福祉車両貸出	94件	161名	受診・買い物・学生送迎など

(7) 福祉機器リサイクル事業

不要になった福祉機器の有効利用を目的に、「譲りたいかた」と「譲り受けたいかた」の仲介を行った。

成立件数：14件

内容	件数	内容	件数
車いす	8件	ポータブルトイレ	1件
ベッド	3件	入浴いす	1件
歩行器	1件		

(8) 善意銀行

社会福祉事業に理解のある多くの市民や団体などからの善意による金銭、物品の預託を受入れ、不慮の災害や貸付を必要とする方々に預託された善意を取り次いだ。

区分	預託		払出	
金銭 預託	前年度繰越金	11,073,091 円	給付費支出	15,777,405 円
	寄附金収入	16,016,584 円	その他事業支出	19,980 円
	その他の収入	409 円		
	収入計	27,090,084 円	支出計	15,797,385 円
			収支差引残高	11,292,699 円
物品 預託	食品(玄米、白米)			15 件
	食品(缶詰、お菓子など)			12 件
	生理用品(紙おむつなど)			7 件
	飲料			6 件
	生鮮食品			5 件
	衣類(シャツ、下着など)			5 件
	乾パン			2 件
	防災グッズ			1 件
	パネルヒーター			1 件
	車椅子			1 件
	切手			1 件
	その他			3 件

13 福祉に関する相談・支援

(1) 地域包括支援センター(地域・基幹)

地域住民の保健・福祉・医療の向上、高齢者の虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行った。また、基幹型地域包括支援センターでは、地域型包括支援センターが担当する虐待及び困難ケースの支援を実施した。

ア 対象者

(ア) 地域型 愛宕学区に在住の 65 歳以上の高齢者及び 64 歳以下の介護保険の被保険者及びその家族

(イ) 基幹型 市内の地域包括支援センター(20 箇所)

イ 相談者数

(ア) 地域型

単位：件

区分	件数	区分	件数	区分	件数
本人	678	家族	650	民生委員	68
ケアマネ	964	介護事業者	645	地域	31
公的機関	233	医療	126	その他	35
				合計	3,430

(イ) 基幹型 単位：件

包括等	件数	包括等	件数	包括等	件数
中央	63	ひな	261	竜美	175
真福	216	社協	6	スクエア	208
さくらの里	259	なのはな苑	91	高年者	290
ふじ	192	さくら	293	やはぎ苑	12
北部	91	はしめ	295	南部	129
西部	49	東部	450	額田	53
むつみ	38	岡崎東	19	その他	19
				合計	3,209

ウ 相談内容

(ア) 地域型 単位：件

内容	件数	内容	件数
介護保険	3,160	介護予防	1
認知症	70	在宅福祉	16
苦情	4	若年	0
生活保護	21	消費生活	0
未返信	31	障がい福祉	2
生活支援	59	住まい	64
医療に関すること	156	業務外	9
虐待	13	家族課題	59
成年後見・自立支援事業	9	その他	54
		合計	3,728

(イ) 基幹型 単位：件

内容	件数	内容	件数
虐待	571	その他	34
困難ケース	2,604	合計	3,209

(ウ) 基幹型（上記内容内訳） 単位：件

内容	件数	内容	件数
個別支援相談	1,879	医療機関連携	118
地域ケア会議	6	個別ケア会議	98
日常生活自立支援事業	7	成年後見申立支援	38
多職種連携	242	同行訪問	185
市との連携	345	その他	291
ネットワーク会議	0	合計	3,209

エ 業務内容

(ア) 地域型(担当学区：愛宕学区)

- a 総合相談支援(地域の実態把握・地域のネットワークの構築)
- b 権利擁護(成年後見制度活用支援・高齢者虐待への対応・消費者被害防止啓発)

- c 包括的・継続的ケアマネジメント支援(地域包括ケア推進・介護支援専門員支援・困難事例への対応、医療・介護等の多職種連携推進事業)
- d 介護予防ケアマネジメント(総合事業対象者の介護予防支援ケアマネジメント)
- e 介護予防支援(要支援者の介護予防支援)
- f 地域課題の把握や共有、ネットワーク構築、資源等の充実強化、高齢者等の参加促進、地域の支えあい活動の推進
- g 周知活動
- h 地域ケア会議開催
- i 出前講座・高齢者を支える家族の会開催
- j ケアマネ交流会開催
- k 認知症施策推進

(1) 基幹型

- a 虐待・認知症等の困難事例への対応支援
- b 生活支援体制整備協議体、個別ケア会議、コミュニティケア会議の開催支援
- c 地域包括ケアシステム構築の支援
- d 人材育成の支援、多職種への指導及び助言
- e コミュニティソーシャルワーク
- f 生活支援コーディネーター(1層)
- g 就労的活動支援コーディネーター

内容	件数	内容	件数	内容	件数
打合せ	84 件	会議	92 件	研修	14 件
情報(収集・発信)	263 件	活動	216 件	連絡調整	323 件
その他	5 件			合計	997 件

(2) 介護サービス事業者連絡協議会の運営

岡崎市内をサービス提供区域としている介護サービス事業者が、市民の信頼や期待に応え得る質の高い介護サービスを提供できる基盤を整えるために、事業者相互の研鑽を進める自主的な組織の事務局を担っている。居宅介護支援事業者部会、在宅サービス事業者部会、施設サービス事業者部会、在宅サービス事業者部会(7小部会で構成)により成り立つ。介護保険制度等の情報を共有し、事業者全体のレベルアップを図るとともに、事業者相互の「交流」「研鑽」を行い、質の向上、介護医療福祉の連携を図った。

ア 幹事会

年2回開催 事業報告および決算報告、事業計画および収支予算

イ 全体研修会2回開催(全部会対象)

(ア) 第1回

開催日：令和5年6月4日(土)

テーマ：医療的ケア児と家族が安心して暮らせるインクルーシブ社会を目指して

参加者：94名

(イ) 第2回

開催日：令和5年11月16日(木)

テーマ：7つの習慣@Care 研修 ダイジェストセミナー

参加者：174名

ウ ごちやまぜ交流会2回開催(全部会対象、防災を主テーマに実施)

(ア) 第1回

開催日：令和5年9月21日(木)

テーマ：災害時要配慮者支援を考える ～アクションカードの作成

参加者：175名参加

(イ) 第2回

開催日：令和6年2月15日(木)

テーマ：令和5年6月2日大雨の経験から学ぶ

参加者：132名

エ 令和6年度介護報酬改定についての研修会開催支援

開催日：令和6年3月13日 オンライン(ZOOM)開催、サテライト会場設置

オ 居宅介護支援事業者部会開催支援

毎月開催(1部：関係課等からの情報提供、2部：研修)

カ 在宅サービス事業者部会、施設サービス事業者部会事務支援

(3) 岡崎市成年後見支援センター

認知症や知的障がい・精神障がいなどの理由で判断能力が十分でないかたが地域で安心して生活ができるよう成年後見制度の適正な利用促進のための相談・支援及び普及啓発と、法人後見受任事業を実施した。

ア 主なサービス内容

相談員による相談援助、家庭裁判所への申立て手続き支援、普及啓発、法人後見受任事業を実施した。

イ 成年後見相談者数

相談支援

区分	件数
新規相談	182件
継続相談	2,009件

ウ 相談対象者

区分	件数	区分	件数
認知症高齢者	1,358件	身体障がい者	77件
認知症以外要介護高齢者	38件	高次脳機能障がい者	30件
要支援・要介護以外高齢者	31件	健常者	23件
知的障がい者	250件	その他	20件
精神障がい者	364件	合計	2,191件

エ 相談内容

区分	件数	区分	件数
成年後見制度概要	617件	任意後見	13件
家庭裁判所への申立て手続き	560件	市長申立て関係	190件
判断能力・診断書・鑑定書	85件	身上監護に関する事	5件
財産管理に関する事	22件	虐待・権利侵害	3件
債務・浪費	13件	消費者被害	0件
身元保証に関する事	3件	相続・遺産分割協議	11件
後見人等の業務に関する事	76件	法人後見に関する事	10件
その他	583件	合計	2,191件

オ 支援内容

区分	件数
成年後見制度説明	508 件
資源情報(成年後見人の候補者等)の提供	23 件
専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士)との調整	8 件
家庭裁判所への申立て手続き支援	278 件
成年後見人等の助言	9 件
関係者会議、調整等への出席・同行等	226 件
連絡や調整に関すること(進捗確認、情報共有確認含む)	862 件
その他	277 件
合計	2,191 件

カ 普及啓発及び研修会の開催

(ア) 広報

社協だより(9月掲載)

市政だより(10月掲載)

民生委員児童委員協議会へ成年後見支援センターちらし等配布(4、9、10月)

岡崎市役所支所(全7箇所)へパンフレット配布(11月)

(イ) 各種団体への普及啓発

出前講座：11回

(ウ) 成年後見制度市民講演会

開催日：令和5年10月14日(土)

会場：せきれいホール

テーマ：笑って学ぼう！成年後見

第1部 漫才 漫才師：青空一風・千風

第2部 対談「はじめまして、市民後見人です」

参加者 87名

(エ) 市民向け勉強会

開催日：令和5年11月5日(日)

テーマ：家族は後見人になれるの？なれないの？

講師：成年後見支援センター職員

参加者：30名

(オ) 関係者対象権利擁護勉強会

※障がい者基幹相談支援センターとの合同企画研修

a 第1回

開催日：令和5年6月23日(金)

テーマ：意思決定支援ってなんだろう

～基本的人権と本人による自己決定の尊重、意思の確認～

講師：弁護士 三宅 結花 氏

参加者：58名

b 第2回

開催日：令和6年3月19日(火)

テーマ：事例を通して考える、意思決定

講師：尾張東部成年後見支援センター

あすライツ センター長 住田 敦子 氏

参加者 52名

(カ) 専門職相談会の開催

弁護士会（毎月第1木曜日）年間7回開催 相談件数 20件

司法書士会（隔月第3金曜日）年間1回開催 相談件数 2件

キ 岡崎市成年後見制度利用促進協議会への参加

第1回 令和5年 8月10日(木)

第2回 令和5年 11月 7日(火)

第3回 令和6年 2月14日(水)

ク 受任調整会議(奇数月 第3水曜日) 10回開催 検討ケース計 25件

	開催日	検討件数
第1回	令和5年 4月19日	1件
第2回	令和5年 5月17日	2件
第3回	令和5年 6月21日	3件
第4回	令和5年 7月19日	1件
第5回	令和5年 8月23日	6件
第6回	令和5年 9月20日	中止
第7回	令和5年 10月18日	2件
第8回	令和5年 11月15日	1件
第9回	令和5年 12月20日	2件
第10回	令和6年 1月17日	4件
第11回	令和6年 2月21日	中止
第12回	令和6年 3月27日	3件

ケ 日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者のうち判断能力が不十分なかが、地域において自立した生活が送れるよう、利用者との契約に基づき、福祉サービスの利用援助などを行った。

(ア) 主なサービス内容

福祉のサービス利用援助、日常的な金銭の管理、日常生活の事務手続きの支援、重要な書類などの預かり

(イ) 実利用者数

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
利用者数	17名	18名	12名	47名

(ウ) 相談援助件数(問合せ・相談援助件数)

事項	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
初回相談(受付)	22件	14件	21件	57件
相談援助(上記以外)	1,305件	1,023件	1,138件	3,466件
合計	1,328件	1,037件	1,160件	3,525件

(エ) 終了者数

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	合計
死亡	1名	1名	1名	3名
移行	1名	0名	0名	1名
その他	1名	1名	4名	6名
合計	3名	2名	5名	10名

(4) 法人後見事業

ア 法人後見

区分	件数
新規受任	4件
受任対象対応件数	1,919件

イ 相談対象者(法人後見)

(ア) 類型(後見)

区分	件数
認知症	897件
精神障がい者	11件
知的障がい者	84件
高次脳機能障がい者	0件
合計	992件

(イ) 類型(保佐)

区分	件数
認知症	332件
精神障がい者	13件
知的障がい者	183件
高次脳機能障がい者	0件
合計	528件

(ウ) 類型(補助)

区分	件数
認知症	181件
精神障がい者	212件
知的障がい者	10件
高次脳機能障がい者	0件
合計	403件

ウ 支援内容

区分	件数	区分	件数
金銭管理・金融機関手続き	451件	住居に関する手続き	51件
福祉サービス利用・契約手続き	76件	行政手続き	73件
入院・医療に関する手続き	97件	登記に関する手続き	10件
家庭裁判所への手続き	50件	モニタリング	52件
本人との連絡調整	71件	関係者との連絡調整	294件
関係者会議への出席	78件	死後事務	7件
その他	613件	合計	1,923件

(5) 障がい者相談支援事業

障がい児・者やその家族からの相談を受け、必要な情報提供や各種関係機関の紹介、福祉サービスの利用援助、社会資源の活用や社会生活力を高めるための支援などを総合的に行うことにより、自立と社会参加の促進を図った。

ア 対象者

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病、障がい児やその家族

イ 対象者内訳

対象	実人数
身体障がい	49名
知的障がい	114名
精神障がい	180名
重症心身障がい	2名
その他	29名
合計	374名

ウ 支援方法

支援方法	件数
訪問	1,115件
来所相談	147件
電話等相談	2,171件
その他	519件
合計	3,952件

エ 支援内容

内容	件数	内容	件数
福祉サービス利用	3,252件	家計・経済	361件
障がいの理解	538件	生活技術	1,312件
健康・医療	980件	就労	477件
不安解消・情緒安定	849件	社会参加	24件
保育・教育	95件	権利擁護	76件
家族・人間関係	496件	その他	843件
		合計	9,303件

オ 啓発・広報

地域の福祉事業所への研修会(年3回、5月、8月、3月実施)

カ 障がい支援区分認定調査

調査実績 60件

キ 岡崎市障がい者自立支援協議会就労支援専門部会の運営(事務局)

年4回

(6) 障がい者基幹相談支援センター(障がい者虐待防止センター)

地域の相談支援事業所や関係機関が抱えている困難ケースなどの相談を受け、各種障がい種別やニーズに応じた専門的な相談支援ができるよう指導・助言や関係者会議などを行った。

その他、障がい者自立支援協議会各専門部会並びに岡崎市障がい福祉サービス事業者等連絡会の事務局運営、相談支援事業所の資質向上を図るためのグループスーパービジョンの研修会を開催した。

障がい者虐待防止センターでは、障がい者虐待に関する相談窓口として24時間対応を行い、常に市と連携し情報共有しながら事実確認のための調査訪問や支援計画の検討会議などを開催した。

また、虐待防止や権利擁護意識の向上を図るため、ふくし相談課との共催による「防災と地域づくり～障がい者と市民の安全な避難について～」を市民向け権利擁護講演会として実施した。また、事業所向け権利擁護講演会として、成年後見支援センターと共同しての研修会(2回)の実施、各事業所からの依頼による「権利擁護」に関

する研修を実施した。

ア 総合的・専門的な相談支援の実施

困難事例相談対応 年間件数 1,995 件(前年度：1,672 件)

イ 地域の相談支援体制の強化

(ア) 相談支援事業所訪問

訪問事業所数：15 事業所

※困難ケース対応等、個別に各事業所との協働での対応も適宜実施。

地域の相談支援事業所からの相談件数

単位：名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
委託相談	39 (18)	58 (22)	96 (36)	60 (26)	67 (31)	92 (35)	68 (32)
指定特定	12 (7)	6 (5)	18 (14)	32 (22)	30 (16)	8 (5)	13 (8)
月	11月	12月	1月	2月	3月	/	合計
委託相談	71 (25)	78 (31)	77 (26)	63 (28)	40 (21)		809 (109)
指定特定	16 (10)	40 (22)	20 (10)	31 (16)	16 (9)		242 (60)

※ 延べ人数(実人員)

(イ) 委託相談支援事業所連絡会議 年間 12 回

(ロ) 関係機関会議への出席 年間 10 回

(ハ) 個別支援会議への出席 年間 91 回

(ニ) 障がい福祉サービス等事業者連絡会の開催

全体会	実施回数	代表者会議	実施回数
相談支援事業所部会	5 回	就労系事業所部会	3 回
生活介護事業所部会	3 回	居宅介護事業所部会	3 回
施設系事業所部会	3 回	児童通所支援事業所部会	3 回

(ホ) 相談支援従事者養成研修への協力

a 演習講師派遣

現任研修(3日間)令和5年7月20日(木)・8月22日(火)・9月20日(水)

主任研修(2日間)令和6年1月18日(木)・1月25日(木)

b インターバル実習の受入れ

初任研修：受講者 15 名の受入れ(各人 1 回)

現任研修：受講者 17 名の受入れ(各人 2 回)

(ヘ) 研修会の開催

a グループスーパービジョン

(a) 第1回

開催日：令和6年1月17日(水)

検討事例：当事者と家族の関係性が悪いケース

参加者：20 名

(b) 第2回

開催日：令和6年3月6日(水)

検討事例：親が精神障害で子どもにサービスを使いたがらないケース

参加者：15 名

b 相談支援従事者初任研修受講者フォローアップ研修

開催日：令和5年10月27日(金)

対 象：相談支援従事者初任研修受講者

参加者：13名

(ク) 岡崎市障がい者自立支援協議会の運営

部会名	開催数
自立支援協議会	5回
(1)個別支援専門部会	6回
(2)地域移行支援専門部会	4回
(3)就労支援専門部会	4回
(4)こども発達支援専門部会	4回
(5)医療的ケア児支援専門部会	4回
(6)権利擁護支援専門部会	4回
(7)障がい者基本計画等推進専門部会	3回

※(1)～(5)については、市内の指定一般相談支援事業所が事務局を担い開催

※(6)については、基幹相談支援センターが事務局を担い開催

※(7)は岡崎市障がい福祉課が事務局を担い開催

(ケ) 先進地の視察

視察先：一宮市障害者基幹相談支援センター

実施日：令和5年10月13日(金)

参加者：障がい福祉課1名、地域アドバイザー1名、岡崎市基幹センター2名

内 容：基幹センターの運営体制、相談支援体制の現状と課題

自立支援協議会の運営方法、人材育成、体制整備状況

地域生活支援拠点整備

ウ 地域移行・地域定着の促進

地域移行支援専門部会において、見える化した課題に対して協議を重ね、当事者向けの「地域移行・地域定着事業パンフレット」作成の方向性をつけた。精神障害者地域移行定着推進研修に出席し、保健所が主導する「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けた検討に参画した。

エ 権利擁護・虐待の防止

(ア) 虐待案件対応 年間202件(延べ件数)(前年度：246件)

(イ) 虐待防止ネットワーク会議への参加6回

(ウ) 権利擁護講演会等の実施

a 市民向け権利擁護講演会

開催日：令和5年6月30日(金)

講 師：跡見学園女子大学 鍵屋 一 教授

福祉防災コミュニティ協会 湯井 恵美子 氏

テーマ：防災と地域づくり～障がい者と市民の安全な避難に向けて～

参加者：96名

※岡崎市福祉部ふくし相談課との共催により実施

b 事業所向け権利擁護講演会

(a) 第1回関係者対象権利擁護勉強会

開催日：令和5年6月23日(金)

講 師：弁護士 三宅 結花 氏

講 演：意思決定支援ってなんだろう

～基本的人権と本人による自己決定の尊重、意思の確認～

参加者：58名

※成年後見センターとの合同企画

- (b) 第2回関係者対象権利擁護勉強会
 開催日：令和6年3月19日(火)
 講師：尾張東部成年後見支援センターあすライツ
 センター長 住田 敦子 氏
 講演：事例を通して考える、意思決定
 参加者：52名
 ※成年後見センターとの合同企画

(エ) 研修会などの開催(講師派遣)

- a NPO こどもの発達を支援する会きらら
 令和5年5月11日(木)、5月29日(月)、8月28日(月)(計3回実施)
 b 社会福祉法人愛恵協会 令和5年8月29日(火)
 c 社会福祉法人愛知玉葉会 令和5年12月13日(水)

オ 相談業務の実績

支援内容	面談等	電話	会議	関係機関	その他	合計
困難事例	147件	282件	91件	1,471件	4件	1,995件
地域移行・地域定着	8件	3件	6件	69件	0件	86件
虐待	31件	26件	11件	133件	1件	202件
成年後見制度	6件	2件	4件	18件	0件	30件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件
合計	192件	313件	112件	1,691件	5件	2,313件

(7) 生活困窮者に対する支援

ア 緊急生活資金の貸付業務

市内に居住する、生活保護世帯及び決定を受けた世帯に対し、緊急かつ一時的に必要な生活資金の貸付及び住宅借入のための資金などの貸付を行い、生活の安定に努めた。

区分	貸付の状況		償還の状況	
生活資金	0件	0円	0件	0円
住宅借入	34件	6,678,077円	32件	6,591,277円

イ 暮らし資金の貸付業務

低所得世帯において、不測の出費が生じ、日々の生活を圧迫するような事態が起きたときに融資を行うための事業である。

貸付の状況		償還の状況	
0件	0円	0件	0円

ウ 生活福祉資金(総合支援資金)の貸付業務

低所得世帯を対象にその自立又は、経済面の立て直しの足がかりとして、自立更生の促進に資するように努め、資金の趣旨に基づいてその活用を図った。一部の資金の貸付け及び償還にあたっては、当該世帯の区域を担当する民生委員児童委員の適切な指導と協力により行った。

経済的な事情により進学を逃すことなく、安心して進路を検討できる一助のため、教育支援資金の広報を実施。市内 20 中学校全中学3年生 3,650 人の保護者へチラシ案内、

また、進路指導担当教諭への訪問説明、電話案内、面談同席を実施。他、子ども・若者地域支援協議会、ひとり親教育費セミナー、スクールソーシャルワーカー、定時制通信制合同説明会、その他(若者サポートセンター、学習会等)へチラシ配布、配架を実施。

本則貸付

貸付項目	決定件数	決定額
総合支援資金	2件	960,000円
福祉費	7件	3,375,000円
教育支援資金	5件	6,806,000円
不動産担保型生活資金	0件	0円
緊急小口資金	18件	1,540,000円
合計	32件	12,681,000円

教育支援資金広報

配布先		部数
進路指導主事会	市内全校教諭を通じて、中3保護者	3,750部
子ども・若者支援地域協議会	支援資料として	30部
ひとり親教育費セミナー	会場配架	50部
スクールソーシャルワーカー	支援資料として	10部
定時制通信制高校合同説明会	会場配架	20部
その他(若サポ、学習会等)		140部

エ はぴりんバンク・フード&グッズ事業

(ア) 生活困窮者・世帯に対し、支援者・団体（OKフードドライブ、子ども食堂、コミュニティソーシャルワーカー、家計改善支援事業、地域包括支援センター、障がい相談支援事業所、スクールソーシャルワーカー、民生委員児童委員、ケアマネジャー等）を通して一時的に食料、日用品を提供することで、自立に向けた支援を行っている。今年度は個別支援を中心に実施。新たにひとり親生活困窮世帯へのフードドライブ事業への支援、障がい児へのオムツ支援、能登半島地震被災地への子ども用オムツ支援、就職活動のスーツレンタル支援を実施。また、おかざきほっとサポートと連携し、はぴりんバンクを活用した就労準備前の居場所、社会参加の機会づくりを実施した。

支援先	件数等	内容
伴走型等を通じた個別支援	94世帯	食料、衣服、日用品
民生委員、スクールソーシャルワーカー等支援者を通じた個別支援	350袋	米5kg
OKフードドライブ	9回	食料
子ども食堂	6回	食料・日用品
ひとり親生活困窮世帯	4回	食料・日用品
障がい児生活困窮世帯	246袋	子ども用オムツ
能登半島地震支援	273袋	子ども用オムツ

(イ) ファミマフードドライブとの連携

社会福祉協議会の協定店舗を4店舗から7店舗へ拡大。SNS 発信を随時実施し、令和4年度と比較して、2.4倍の食料が集まった。

(8) 住宅リフォーム事業

高齢者、障がい者などの自宅を訪問し、住宅改修に関する技術的助言、建築士による意見書の作成などを実施した。

意見書の作成件数：217件

相談件数		訪問	面接	相談	合計
高齢者	利用者	217件	2件	6件	225件
	関係機関	0件	254件	331件	585件
	合計	217件	256件	337件	810件
障がい者	利用者	7件	7件	15件	29件

(9) 介護者リフレッシュ事業『くつろぎルームたんぼぼ』

在宅において介護をされている介護者を対象に介護者同士の情報交換、介護者の悩みや健康相談ほか、包括支援センターと連携して介護情報の提供、民生委員との交流などを通じて日頃の悩みなどを共有し、介護する側が孤立しない支援を目的に年8回実施した。

(10) 子育てサロン『ひだまり Kids』事業

子育て中の母親の孤立の防止、育児に対する不安やストレスの軽減を図ることを目的に、豊富と形埜の2箇所で開催した。子どもたちが遊んでいる間に、子育て中の親同士の交流なども行われ、市街地より移動に時間がかかる額田地区の子育て世代の交流の場として活用した。

会場	参加者
岡崎市額田センターこもれびかん	延 87 組 / 190 名
形埜学区市民ホーム	延 48 組 / 139 名
合計	延 135 組 / 329 名

14 各種介護サービス

(1) 介護保険事業

居宅介護支援(ケアマネジャー)事業では、要介護認定のかたを始め、困難ケースの受け入れや、緊急時における 24 時間対応など、利用者のサービス向上に努めた。特に居宅介護支援事業所の少ない額田地区において、地域の介護保険事業を支える事業所としての立場を自覚し、ケアマネジャー業務に取り組んだ。

訪問介護事業においても、ホームヘルパーの技術向上を毎月行うことで、より質の高いサービスの提供やケアサービスの適切な提供に努めた。

ア 居宅介護支援事業の状況(プラン作成状況など)

区分	件数
ケアプラン	2,502件
予防ケアプラン	758件
要介護認定調査件数	129件

イ 訪問介護事業(介護保険)の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	758件	5,880回
額田支所	453件	2,577回
合 計	1,211件	8,457回

(2) 障害者総合支援事業

障がいの特性を理解し、相手の気持ちを尊重しながら自立に向けて援助するとともに、地域で安心して暮らしていけるように関係機関と連絡を密にとり、ケアサービスを実施した。

ア 訪問介護事業(障がい)の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	984 件	6,979 回
額田支所	72 件	665 回
合 計	1,056 件	7,644 回

イ 地域生活支援事業の状況

部 門	訪問件数	訪問回数
本 部	180 件	462 回
額田支所	19 件	19 回
合 計	199 件	481 回

(3) 養育支援事業

養育支援事業は、子育てに困難を抱えている家庭を訪問し、児童の養育に係る支援を行い虐待防止に努めた。また、ヤングケアラーをはじめ各種の福祉課題を抱える世帯への訪問となることから、常に岡崎市担当課との連携を密にし、情報を共有し慎重な訪問に留意した。

訪問件数	訪問回数
45 件	186 回

(4) 産前産後ホームヘルプサービス事業

産前産後ホームヘルプサービス事業は、出産前後の母親の心身の健康を維持するとともに、児童及びその家庭の生活の質(QOL)の向上に努めた。

訪問件数	訪問回数
62 件	243 件

(5) 研修・啓発事業

訪問介護職員への研修を計画し、年間 12 回の研修を実施し、資質・技術の向上に努めた。また、地域の方からの要望により根石学区市民ホームにて地元住民に向けた介護技術講習を実施した。

15 指定管理制度の受託

(1) 指定管理事業「岡崎市社会福祉センター」

岡崎市社会福祉センターの指定管理者として、館内活動室の貸し出し、会館管理業務を令和3年度より受託した。活動室は、ボランティアセンター登録団体や障がい者団体のほか、一般企業・団体等にも貸し出し(一部有料)を行った。また、1階のボランティアセンターでは、福祉ボランティアの活動拠点として情報提供・活動のコーディネートなどを行った。

ア 利用団体数(累計)

単位：団体

	1 階				2 階		計
	第 1	第 2 A	第 2 B	第 3	多目的 A	多目的 B	
減免	379	332	253	316	242	228	1,750
有料	97	124	132	98	117	96	664
計	476	456	385	414	359	324	2,414

※表中省略文字は、減免：利用料減免者、有料：有料利用者、第 1：第 1 活動室、第 2 A：第 2 活動室 A、第 2 B：第 2 活動室 B、第 3：第 3 活動室、多目的 A：多目的室 A、多目的 B：多目的室 B となります。

イ センター運営に必要な訓練

避難訓練

実施日：令和5年9月1日(月)

内容：初期消火訓練、避難誘導、通報訓練

(2) 障がい者などアートのセンター内展示

ア オカザえもんパラ芸術祭 2023

(ア) Part 1 オカザえもんの子どもワークショップ

a ワークショップ(創作活動)

開催日：令和5年12月9日(土)

会場：岡崎市社会福祉センター 2階 多目的室

内容：オカザえもんと子どもたちの共同創作活動

b ワークショップ作品展

期間：令和5年12月14日(木)～令和6年1月28日(日)

会場：岡崎市社会福祉センター 1階～3階通路

内容：ワークショップで創作した作品展示

(イ) Part 2 オカザえもんの公募作品展

期間：令和6年1月30日(火)～令和6年3月3日(日)

会場：岡崎市社会福祉センター 1階～3階通路

内容：特別支援学校(学級)の子どもと障がいのあるかたを対象とした作品展

(ウ) Part 3 オカザえもんのみんなの作品展

(あいちアール・ブリュット展 10周年記念事業 連携事業)

期間：令和6年3月5日(火)～3月24日(日)

会場：岡崎市社会福祉センター 2階通路

内容：あいちアール・ブリュット展で優秀作品に選ばれたかたの作品とオカザえもんの公募作品展入賞作品を展示

(3) 指定管理事業「岡崎市ふれあいデイサービスセンター」

65歳以上で介護保険申請前のひとり暮らし高齢者、日中独居高齢者などを対象に、社会的孤立感の解消や心身機能の維持及び向上を図り介護予防に繋げることを目的とした指定管理事業「岡崎市ふれあいデイサービス事業」を受託し旧額田町内において実施した。

	開所日数	延利用者数
年間実績	241日	1,711名

ア ふれあいデイサービス買い物支援事業

日常的に買い物をする機会が減少しているふれあいデイサービス利用者向けに、小売店(稲葉屋)と連携し毎月、簡易な買い物コーナーをふれあいデイサービスセンター内に設け、デイサービス利用者実際に品物を手に取って買い物ができる機会を設けた。

ふれあいデイサービス買い物支援事業実績(再掲)

	支援回数	利用者数	買物金額
年間実績	73回	471名	488,512円

※事業は毎月実施